

予選、決勝共に光る走りを見せ、収穫のある1戦に 2021 全日本スーパーフォーミュラ選手権第4戦レポート

開催日程	2021年6月19日(土)/20日(日)	開催場所	スポーツランド SUGO(3.586km)
大会名称	2021年 全日本スーパーフォーミュラ選手権 第4戦(53周 / 参加台数:19台)		
天候/気温	6月19日(土): 雨 / 19°C	20日(日): 曇りのち晴れ / 24°C	
観客動員数	6月19日(土): 2,600人	20日(日): 4,600人	計 7,200人 (主催者発表)



全日本スーパーフォーミュラ選手権第4戦が、スポーツランド SUGO で開催された。スポーツランド SUGO は昨シーズンオフからサーキット内の一部改修工事が行われており、ピットロードの拡幅やピットロード出口の変更、一部ピットビルの建て替えやメディカルセンター、車検場の移設など様々な部分が改修された。利便性、安全性が向上し、ドライバーやチームが力を発揮しやすい環境に改善されている。

シーズン全7戦となるスーパーフォーミュラは、今大会でシーズンの折り返し地点を迎える。開幕戦こそポイントを獲得しませんが、出だしを切った KCMG だが、第2、第3戦とノーポイントのレースが続いている。復調のきっかけをつかむため、今大会もまずはポイント獲得を目標にチーム一丸で予選、決勝に挑んだ。ピットロードとその出口の改修により、一部コースの路面も舗装が変わっており、設営日となった18日(金)にはエンジニアやドライバー、スタッフらがコースウォークを行って実際の路面状況を確認するなど、万全の状態ですレースウィークに臨んだ。

【予選】

天気:雨 / 気温:19°C / 路面コンディション:ウェット

#7 小高一斗	Q1A 組: 6 位 / 1' 21.012	Q2A 組: 6 位 / 1' 21.128
#18 国本雄資	Q1B 組: 9 位 / 1' 21.587	

19 日(土)は朝から終日雨が降り続き、午前中のフリー走行からウェットコンディションとなった。午前 9 時 10 分にセッションが開始。KCMG の 2 台もライバル勢と同様に、開始と同時にコースチェックへと向かい、そのまま連続周回に入る。徐々にベストタイムを削っていく中、他車がコースアウトしたことで赤旗中断。その後、1 時間 30 分のセッションの中で合計 3 度の赤旗中断に見舞われた。雨が強い中、さらにサーキット改修で一部路面の舗装が変わっており、赤旗提示とはならないまでも、多くの車両が随所でスピンする様子が確認されるほど、アタックをするには難しい路面状況に。そんな中、小高と国本の 2 人は積極的に周回を重ねていく。小高は全車中で最多ラップをこなして 15 番手タイム。国本は 11 番手タイムを記録してセッションを終了。午後の予選に向けてマシンのセットアップを煮詰めていった。

午後も天気は相変わらず、ウェットコンディションで予選がスタートする。今大会の予選では、Q2 まで A、B の 2 組に分けて実施することがアナウンスされていた。KCMG は小高が A 組、国本が B 組で出走。まずは小高が上位 7 人の Q2 進出をかけて予選に挑む。小高はコースイン後、タイヤを温めながら徐々にペースアップし、最終ラップで 1 分 21 秒 012 をマーク。午前中よりも路面コンディションが悪化し全体的にタイムが伸び悩む中、小高も午前中の自己ベストタイムには届かなかったが 6 番手で Q1 突破を決めた。10 分のインターバルを挟んで行われた B 組の Q1 は、各車のタイム差が接近し Q2 進出に向けて A 組よりも熾烈な戦いとなった。国本のタイムは 1 分 21 秒 587 で、トップとは約 2 秒差となり、残念ながら Q2 進出には届かず 9 位、総合 18 位で予選を終えることとなった。

Q2 に進出した小高は、ピット位置の関係で最後にコースイン。Q1 ではタイヤのウォームアップに課題が残ったため、他車との間隔を開けて入念にタイヤを温めてアタックに向かった。しかし、Q1 よりも 3 分短いセッションの中で、Q1 の自己ベストタイムを塗り替えるところには届かず、1 分 21 秒 128 で 6 番手に。残念ながら Q3 進出はならなかったが、最終的な総合順位は 11 位と今季最上位グリッドから翌日の決勝をスタートすることになった。

【決勝】

天気:曇りのち晴れ / 気温:22℃ / 路面コンディション:ドライ

#7 小高一斗: 17位 / #18 国本雄資: 13位

決勝日は、朝方こそ小雨がぱらついたものの昼から天気は急回復。気温 24℃、路面温度も 34℃まで上昇し夏を思わせるコンディションの中で 53 週の決勝レースがスタートした。

スタートに自信を持つ国本は、18 番グリッドから抜群の動き出しで前方 16 番グリッドのマシンをかわして 1 コーナーへ。ポジションを上げて 1 コーナーを抜け、2 コーナーへと進入していくが、アウト側に並んでいた 1 台をかわすところまでは届かず、17 番手。続く馬の背コーナーでイン側に 1 台飛び込まれ、予選順位に戻り 18 番手でオープニングラップを終えた。国本は序盤の集団の中でチャンスを狙うが、前を走る #12 塚越広大選手や #4 中山雄一選手と比べるとペースはいいものの、スポーツランド SUGO はストレート区間が短く抜きづらいコースで、なかなか相手をとらえる機会が巡ってこない。10 周を完了しタイヤ交換作業が可能になると、早々に 3 台がピットに向かったため、国本の見た目上の順位は 15 番手にアップ。その後国本は、21 周目にタイヤ交換を行うが、チームはミスのない作業で国本を送り出し、ここまで抜くの苦勞していた #12 塚越選手の逆転に成功。同じタイミングでピットに入った #4 中山選手を 27 周目に攻略し、これでさらにポジションアップする。34 周目にはピットアウト直後の #3 山下健太選手もかわして 13 番手へ。ひとつ前を走る #1 山本尚貴選手とは、10 秒以上の差があったが、国本は上位陣よりも速いペースで周回を重ね、その差を詰めていく。残り 20 周でこれを逆転することはできなかったが、最後は約 2 秒差まで追い詰めてチェッカー。13 位フィニッシュとなった。

一方、今季最上位グリッドを手にした小高だったが、スタート時の動き出しが遅れてオープニングラップは 14 番手に後退。こちらも国本同様、他車のピットインで見た目上の順位は上がりつつも、前を走る #38 坪井翔選手、#3 山下選手らを逆転する機会がないまま周回が進んでいった。ペースは安定し、前とのギャップが詰まる周もあったが、決定的なチャンスを得られないまま 24 周を終えるところでピットイン。暫定 18 番手で後半スティントに入った。フレッシュタイヤでプッシュすると、30 周目に 1 分 8 秒 818 の自己ベストタイムを記録して前を走る #38 坪井選手を追いかける。ただ、その翌周にトップを走る #16 野尻智紀選手にラインを譲るタイミングで、#38 坪井選手との差は広がってしまった。この間に #38 坪井選手が順位を上げ、小高の次の相手は #4 中山選手へ。35 周目にはホームストレートでサイド・バイ・サイドに並びかけ、1 コーナーでの勝負になるが、ここで 2 台は軽く接触。小高は僅かにコースの外側にはらんでしまうが、何とかコースに戻ると再び #4 中山選手を追いかけた。#4 中山選手はこの接触でフロントウィングにダメージを負いペースダウン。小高は 1 つポジションを上げ 16 番手となった。接触アクシデントの間に背後に迫ってきた #12 塚越選手とのバトルは 36 周目。ホームストレートでかわされ、これで再び 17 番手に後退することに。終盤は 1 分 9 秒台のタイムを並べてチェッカーを受け、17 位フィニッシュ。レース後、青旗提示無視による 5 秒のタイムペナルティを受けたものの順位は変わらなかった。

予選では小高が、決勝では国本がそれぞれ光る走りを見せた SUGO 大会は、満足する結果ではなかったものの、シーズン後半戦に向けて好材料を見つけることもできた。次戦もてぎ大会まで約 2 か月というインターバルがあるが、この間にさらにクルマのレベル、チーム力を上げ、好結果を目指す。

【ドライバーコメント】

#7 小高一斗

予選のQ1は通過したものの、まだタイヤが温まりきっていないような感触だったので、そこにも注意しながらQ2に挑みました。しかしこの時はタイヤのパフォーマンスをしっかりと引き出すことができず、不完全燃焼で終わってしまいました。うまくすればQ3も見えていただけに悔しかったです。決勝レースに関しては、練習ではうまくいったスタートで失敗してしまいました。レースペースは悪くなかったと思いますが、スタートでのミスから順位を下げたしまい、その後は前を走るクルマに引っかかっている状態で、思うようなレースができず、悔しさが残るレースになってしまいました。確実に自分のレベルが上がってきていることは感じられているので、今回のようなスタートミスをせず、次戦は結果を残せるように頑張ります。

#18 国本雄資

この週末、走り出しからあまりパフォーマンスには満足がいかず、いろいろなことをトライして予選に臨みましたが、いいパフォーマンスを出せずにQ1敗退となってしまいました。決勝レースのスタートはとても良く順位を上げることができましたが、前半スティントは前を走るクルマに引っかかり、自分のペースで走ることができずに苦労しました。しかしピットインのタイミングが良く、アウトラップのクルマも何台かわすことができさらに順位を上げることができたのは良かったです。バトルに競り勝って順位を上げることもできました。その点では、決勝レースはうまくいったと思いますが、フォーミュラのレースでは予選が結果を大きく左右すると思うので、次戦に向けて、まずは予選のパフォーマンスを上げるということを一番の目標にして進めていきたいと考えています。ポイント獲得に届かず非常に悔しい、苦しい週末となりましたが、長いインターバルの間に気持ちを切り替え、しっかりと準備をしてチームと共に力強いレースをしていけるよう、頑張ります。

【監督コメント】

松田次生監督

小高は予選で成長を感じさせてくれる11番手という結果でした。Q3にはあと一歩届きませんでしたが、素晴らしい走りを見せてくれました。決勝でもペースは悪くなかったものの、スタートでの出遅れとピットインを遅らせる作戦があまりうまくいかず、17位となってしまいました。

一方の国本は、予選はコンディションにクルマを合わせこむことができず18番手という結果に終わってしまいましたが、持ち前のスタートが上手く決まり、また後半スティントはトップのクルマに近いペースで良い走りをしてくれました。結果、13位とポジションを上げてフィニッシュできましたが、ポイント獲得に届かなかったのは悔しく、残念です。今回、チームとエンジニアがクルマを改善してSUGOに臨みましたが、持ち込みセットがそこまで悪くなく、ポジティブな部分もいろいろとありました。ただ、レースには流れも必要で、それに乗れないと上位で戦うことは難しい。次のレースまではインターバルが長いので、今回の要因分析をしっかりと行い、もてぎ大会では予選からいい流れを作れるようにチームみんな頑張ります。今回もたくさんの応援をありがとうございました。次戦もよろしくお願いします。

